明治八年
大阪錦画新聞
第一号
東京の人力車夫常吉とゆふりの谷中の方よりあき車曳て黒門綾どへ来るを折ふし女の泣聲こゑ追剝と思案めぐらし眠りさ振で客待こんりことハ自滅ぶ。剝ぎ奪せる衣類と脅れひ来る所と常吉ぶ。且那お供とやむれべ。根津逆さるふ。滅法界價安ぐ定て母様とゆ。去がりくる細引さひく公直す人力で巡りまの早走ぶ。飛ぶたちまち巡査の。屯所の門へ。時ぶくと大聲す。官捧ふりたと走の出る賊ハ驚きけげんぶる。よくきれまと曳たをかんゐくそのだで宮とられとやくちよ
河鍋文画
略誌画圖